



生物多様性2050 なごや戦略

名古屋市

ご あ い さ つ

今年、国連が定める国際生物多様性年です。新聞やテレビなどで、「生物多様性」という言葉を目にする機会が増えています。

地球上には、森林や草原、海など、多様な環境にあわせて3000万種ともいわれる多様な生きものが、それぞれ支えあい、つながりあいながら暮らしています。この名古屋でも、平野、台地、丘陵地といったそれぞれの地域に、まだ様々な生きものたちが暮らしているのです。生物多様性という言葉は、この様な生きものとそのつながりの豊かさを表しています。

わたしたちの暮らしは、昔から、食べものやものづくりの原材料として、この生物多様性に支えられてきました。開府400年を迎えた本市は、からくりなど、世界に誇る伝統文化が花開いた土地です。この名古屋地域の生物多様性が、例えば木曾から運ばれる木材として、歴史や伝統といった「なごやらしさ」を育んだといえるでしょう。しかし、わたしたち人間の活動によって、現在、その生物多様性が危機に瀕しています。

名古屋市では、このたび「生物多様性2050なごや戦略」を策定いたしました。この戦略は、本市が生きものと共生する持続可能な都市となるための長期的な指針として、「身近な自然の保全・再生」と「生活スタイルの転換」の2つの観点から、2050年のビジョンと4つの戦略を示しています。

今年、名古屋市を会場に、世界の国と地域が生物多様性の保全と持続可能な利用について話し合う、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されます。COP10の開催を契機に、生きとし生けるもの全てが、幸せに生きていける街ナゴヤを、市民のみなさんとともに目指してまいります。

2010年3月

名古屋市長 河村 たかし

はじめに

私達の命は父と母からいただいたもの。その父と母の命は祖父と祖母からいただいたもの。私達が今生きているのは過去の「生命の連鎖」のおかげである。その「生命の連鎖」がなければ、私も、あなたも、僕も、君もこの地球上には存在しえない。おなじようにこの地球上の生きとし生けるものの命も生命の連鎖の賜物なのである。

ところが現代人はこの生命の連鎖の尊さ、その生命の連鎖の歴史性をまったく忘却し、あたかも自分は一人でこの世に生まれ、そして自分の欲望のままに生きることを許された存在であるかのように錯覚している。

過去への感謝、生命の連鎖への感謝と未来への責任の喪失が現代文明の一つの特質である。

それは現代人が生命の連鎖と、生きとし生けるものにたいして祈る心を喪失したことでもある。

過去への感謝を忘れた現代人は、未来への責任をも放棄した。

自分の命をはじめ、生命が歴史的存在であることを忘却した現代人は、未来への責任をも放棄することになった。

生物多様性にとって重要なことは、生命の存在が歴史的存在であることを知ることである。歴史と時間の持続性を断ち切っては、生命は存続しえないのである。

1 頁の衛星写真を見れば、名古屋市が雪をかぶった御嶽山から広がる豊かな森を背後に、木曾川や長良川に代表される水の循環によって伊勢湾の豊穡の海へと結ばれた、森里海の連環の中に位置していることが明白にわかる。名古屋市民の暮らしを下支えしているこの森里海の連環を守り繋いできたのは、未来の子孫のために木を植え「自分が今やっていることは、未来世代のためにやっていることである」という明白な自覚をもった日本人の暮らしだった。

世界の文明の中で持続性の高い文明は日本文明とエジプト文明である。エジプトの歴代の王たちはたえず過去に帰り、過去に学ぶことを繰り返してきた。そしてそれを忘れた時、エジプト文明は崩壊した。

文明の持続性を維持するためには、過去に学び、現在の自分の立ち位置を確認し、未来を模索することを繰り返すことが必要なのである。

私達現代人は、「過去への感謝と未来への責任」を自覚しなければならないのである。

この「生物多様性2050なごや戦略」の真髄は、名古屋市民の暮らしが、いかなる生命の連鎖によって育まれてきたかを明らかにし、未来の名古屋市のあるべき姿を展望するところにある。

2010年3月

生物多様性なごや戦略策定会議 座長
安田 喜憲

生物多様性2050なごや戦略

目次

第1章

生物多様性2050なごや戦略とは [総論編] 1

- (1) 生物多様性2050なごや戦略で伝えたいこと 2
- (2) 戦略策定の背景と手法 4
- (3) 戦略の全体構成 6
 - コラム：生物多様性 8
 - コラム：生物多様性の恵み（生態系サービス） 9

第2章

自然が創り、人が造ったなごや [歴史編] 11

- (1) 自然の摂理が創った大地と生きもの 13
 - ①地球の変動が創った3つの地形 14
 - ②環境からみえてくるなごやの固有性 16
 - ③人の手が入る前のなごやの生きもの 18
 - コラム：地形の変動と植物 ～東海丘陵要素の植物～ 20
- (2) 風土にあわせた人の暮らしの広がり 21
 - ①3つの地形に人が広がる 22
 - ②西部には田んぼや畑が広がる 24
 - ③東部には里山が造られる 26
 - ④中央部には町が発達する 28
 - ⑤100年前のなごやの姿 30
 - コラム：地名と地形を比べてみると・・・ 34
- (3) 近代都市なごやの発展 35
 - ①近代都市としてのなごやの変貌 36
 - ②20世紀後半の急激な変化（まち） 38
 - ③20世紀後半の急激な変化（暮らし） 40

第3章

現在のなごやの姿 [現状編] 43

(1) 身近な隣人——なごやの生きものたち 45	
①今のなごやの生きものたち 46	
②なごやの生物多様性マップ 48	
③世界からみた、なごやの生物多様性 50	
コラム：ため池となごや..... 52	
(2) 快適な人の暮らしと生きもの 53	
①生きものにとって暮らしにくいまち 54	
②生物多様性とわたしたちの安全..... 56	
③人の予想を越えて広がる生きものたち 58	
④失われてきた地域のつながり 60	
⑤いつまでも買えると思うな地球資源 62	
コラム：都市と生物多様性 ～COP10と名古屋市の関わり～ 64	
(3) 生きものからいただく豊かな心..... 65	
①生きものからいただく豊かな心 66	
(4) 社会情勢の変化のきざし..... 69	
①社会情勢の変化のきざし 70	
②第2章～第3章の総括となごやが抱える課題 72	

第4章

望ましいなごやの姿 [展望編] 75

(1) しみが描いた100年後の夢のなごやの姿 77	
①100年後の夢のなごやの姿 78	
コラム：しみん検討会議からの提言 ～100年後に向けたわたしたちの行動～..... 82	
(2) 2050年に向けたビジョンと戦略 83	
戦略1 自然に支えられた健康なまちの創造 84	
戦略2 環境負荷の少ない暮らし・ビジネスの創造 86	
戦略3 自然とともに生きる文化の創造 88	
戦略4 まもり・育て・活かすしくみづくり..... 90	

第5章

もう、始まっています [実践編] 93

(1) 健康なまちづくりにつながる動き 94	
(2) 暮らしやビジネスの変化につながる動き 96	
(3) 新しい担い手や地域づくりにつながる動き 98	
(4) しきみづくりにつながる動き 100	
(5) 横断的な取り組みに向けて 102	

資料編

..... 105	
-----------	--

